

阿蘇地域が**草原特区**に指定

規制緩和や財政支援に期待

《新たな規制の特例措置等の提案内容》

提案事項名

- ①野焼きに支障が生じる小規模樹林等にかかる保安林について規制の特例、緩和
- ②農業振興地域で整備可能な農業用施設の要件の緩和、申請手続きの簡素化
- ③草原内にある国有林立ち入り規制の緩和
- ④第三種旅行業者の企画旅行催行区域制限の緩和
- ⑤草原案内・見回りマッチングシステム構築支援
- ⑥草原を活用したビジネス参加者に対する支援

阿蘇市を含む阿蘇地域が9月13日、国の地域活性化総合特区「草原特区」の指定を受け、9月26日、東京都で特区指定授与式が行われました。

この特区制度は、先進的な地域活性化の取り組みとなる可能性の高い地域を、国が指定し成長戦略の切り札として、総合的に支援する制度です。草原特区(正式名称:千年の草原の継承と創造的活用総合特区)は、ことし4月に阿蘇地域7市町村と山都町により共同申請し、今回、

2度目の申請で指定を受けたものです。

国との協議により特区事業として認定された場合は、規制緩和や財政面などの支援を受けることが可能になります。草原の維持保全と新たな活用による観光振興に取り組むため、国に対し、左記6つの規制の特例措置を提案しています。

今回の指定は、同じく9月に決定した世界ジオパーク国内推薦の大きな後押しとなり、世界文化遺産登録への弾みになるものと期待されます。



総務省庁舎内で行われた授与式の様子。写真左は、新藤義孝総務大臣。

区長が自主防災活動について学ぶ

阿蘇市区長会行政研修を開催

全区長を対象とした行政研修が10月11日、就業改善センターで行われました。

この行政研修は、区長が地域のリーダーとしての役割や要望に添えていくために毎年行われているもので、今回は人権啓発ビデオの上映や「自主防災組織」などをテーマに行われました。自主防災組織については、橋本守和氏(熊本県危機管理防災課)、大木福男氏(前狩尾2区区长)の2名が、自主防災組織の必要性や実際に活動を行った経験をもとに、自助・共助を中



心とした自主防災活動の重要性について講話。参加した区長は、昨年の災害以降、その重要性が注視されている自主防災組織についての研修とあって、熱心に耳を傾けていました。

完成予想図



施設の老朽化により建て替えられる阿蘇広域消防本部新庁舎の建設工事安全祈願祭が10月7日、黒川地区の同本部敷地内で行われ関係者など約75人が出席しました。現庁舎の西側に建設される新庁舎は、消防行政の中核機能、災害

阿蘇広域消防本部新庁舎建設

26年10月運用目指す

時の活動拠点としての機能を持ち合わせ、安全で耐久性の高い、高度情報化に対応。来年10月の運用開始を目指しています。祈願祭で広域行政事務組合の佐藤管理者（阿蘇市長）は、「住民の生命財産を守る安心安全の大きな要となる庁舎にしたい」とあいさつしました。



安全祈願祭のようす

●庁舎概要

【敷地面積】 約 10,152㎡

【主な建築物】

- ①消防本部、中部消防署庁舎、副訓練塔併設
主要構造 R C構造2階（一部3階：副訓練塔部分）
- ②訓練塔（主塔）
R C構造5階地下1階（地下防火水槽併設）

【事業費】 約9億6千万円

豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」 が運行開始！

JR阿蘇駅で歓迎セレモニー

JR九州が約30億円をかけて製造した国内初の周遊型豪華寝台列車クルーズトレイン「ななつ星 in 九州」が10月15日、運行を開始。同18日午前5時30分、県内で唯一停車する阿蘇駅に初めて到着しました。「ななつ星」の乗客は、構内にオープンしたレストラン「火星」で朝食を取り、出発する午前10時までの間、草千里などを散策し阿蘇のひとときを過ごしました。

出発時には、阿蘇市イメージキャラクターの「あか牛くん」と「くまモン」、



「ななつ星」を旗を振って見送りました

YMCA黒川保育園の園児、阿蘇市地域婦人会など多くの人が集まり乗客を見送りました。

地域婦人会のメンバーからは「これを機会に阿蘇がさらに賑わいを見せてくれれば」と期待の声。観光協会の稲吉会長は「阿蘇全体でお客さんを歓迎できた。阿蘇に波及効果をもたらしてくれることを願う」と話していました。

来春まで予約で満席という「ななつ星」は、週2回、JR阿蘇駅に停車します。

